令和２年度　竹田教育事務所管内　第３回地域授業改善協議会

学校全体で組織的に取り組むカリキュラム・マネジメント

～課題の明確化と「強み」を生かした組織的な実践～

報告者　豊後大野市立千歳中学校　校長　萩原正之

【報告内容に関する項目】

Ⅰ　はじめに　・・・ ２

Ⅱ　本校における課題の明確化　・・・ ２

１．学校（生徒や教職員を含む）の実態

２．学校全体での課題の共有化（SWOT分析）

（1）学校や教職員に係る課題

（2）生徒に係る課題

（3）家庭や地域に係る課題

３．課題解決に向けた取組の具体化

（1）学校や教職員に係る「強み」

（2）生徒に係る「強み」

（3）家庭や地域に係る「強み」

４．本校の「強み」を生かした学校目標達成に向けたチーム学校の構築に向けて

Ⅲ　AI（開発的）アプローチを生かした本校での実践　・・・ ４

１．教職員による学校目標達成に向けてのアプローチ

（1）学校評価の４点セットをもとに分掌経営案・学年経営案・教科経営案を４点セット化

（2）教職員評価システム目標管理シートと各４点セットとの連動

（3）全教職員による月ごとの校内研修での目標達成マネジメントの実施

◇「学校評価４点セット自己評価・改善シート」をもとにした振り返り（検証・改善）

（4）「４点セット目標管理評価シート」による各職員へ指導・助言

２．生徒による学校目標達成に向けたアプローチ　・・・ ８

（1）「生徒会目標達成マネジメント」システムの構築

（2）生徒会や保護者と連携した生活習慣確立（ヘルスポイント生活習慣カード）の取組

３．CS（学校運営協議会）による学校目標達成に向けてのアプローチ　・・・ 11

Ⅳ　成果と課　・・・ 12

Ⅴ　終わりに　・・・ 12

Ⅰ　はじめに

前任校である豊後大野市立大野中学校の教頭として、平成３０年度第１回副校長・教頭研修（中央研修）に参加する機会を得た。その研修では「Appreciative Inquiry （開発的）アプローチ」の考え方を学んだので、大野中学校の学校課題の解決に向け、活用することにした。

当時、大野中の教頭として、職員にはメンタル面での課題やモチベーションの低さが、また、生徒においても自尊感情の低さや自信のない姿が気になっていた。「ＡＩ（開発的）アプローチ」は、もともとの良さ（強み）を伸ばしていくことで、他の面も伸ばしていく試みで、活動の成果が「見える化」でき、職員や生徒たちが前向きに取り組めるのではないかと考えた。大野中の強みを組織として共通理解し、「ＡＩ（開発的）アプローチ」を進めることで、職員のメンタル面の改善や生徒も含めたモチベーションの向上がみられ、学校課題を解決していく中で、学校全体の活性化を図ることができたと考えている。

今年度、豊後大野市立千歳中学校の校長として赴任し、前校長との引継ぎや教頭、各主任等からの情報をもとに、本校の学校経営をスタートした。今回の事例提供では、大野中での実践をもとにした千歳中での学校教育目標の達成に向けた実践内容を、カリキュラム・マネジメントの視点を含めて報告するものである。

豊後大野市千歳町は、大野川盆地のほぼ中央に位置し、大野川、茜川によって形成された河岸段丘上には肥沃な田畑が広がっている。大分市や竹田市に通じる中九州横断道路が開通したことにより、交通の便も大きく改善されている。町内の中心部に豊後大野市千歳支所・千歳町公民館・千歳小学校そして本校等、１キロメートル以内に行政機関等が隣接して位置しており、町民挙げて学校教育に対する関心が高く、支援体制も整っている。

平成２７年度より、市教育委員会が推進している連携型小中一貫教育に取り組んでおり、学校運営協議会（「千歳っ子を育てる会」）をその中核組織として「地域とともにある学校づくり」を目指している。現在は、令和５年度の小中一貫教育校の開校に向けて、地域ぐるみの取組を進めている。

Ⅱ　本校における課題の明確化

１．学校（生徒や教職員を含む）の実態

今年度、校長として千歳中学校へ赴任し、新年度がスタートした。前年度にいた教諭のほとんどが残っており、校長を含む３名が転入してきた。前校長や教頭との引継ぎ、また教職員との当初の面談により、校長の学校経営に関しては、彼らの多くが理解しており、その具現化に向けて取り組んではいたが、互いの思いが十分に出し合えず、不満やストレスを抱え、一人ひとりのモチベーションが上がらない状況を感じた。

また、生徒は素直で明るい面を持ってはいるが、学びに向かう意識の低さや指示待ちの生徒が多く、自分で考えず人の意見に流されやすいこと、自分の生活や行動をコントロールする力の弱さ、自尊感情が低く自信のない生徒の姿が気になった。

チーム学校の視点でも、組織としての取組が弱く、学校課題解決に向けて個々の職員が、今起こっていることに振り回され、対処療法的な取組になっていた。（課題に対して学校全体で共有できず、個々がバラバラになり、担当者が一人で抱え込む状況があった）

また、行事等の取組でも、ただ行事を実施することが目的となり、学校目標の達成に向けた取組になっていない状況があった。

２．学校全体での課題の共有化（ＳＷＯＴ分析）

昨年度の振り返りや各種アンケート結果等をもとに学校全体に係る課題について、ＳＷＯＴ分析を活用し教職員での共有化を行った。

学校の SWOT 分析シート（千歳中学校）

学校名： 豊後大野市立千歳中学校

強み（S） 学校内部（規模及び子ども集団・組織体制）

・協働体制がとれる教職員の人間関係はある
・生徒の問題行動が少なく、多くの生徒が部活動に参加
・素直で目標が決まると真剣に取り組む生徒が多い
・作業や活動中心の学習は、意欲的・主体的に取り組む
・神楽や合唱、劇用の発表は前向きに取り組み、表現力育っている
・縦割り班の活動は、生徒会中心に主体的に取り組めている
・グループ活動や全校での縦割り班での活動は協力してできる
・生徒の多くは自信を持つと力を発揮できる

機会（O） 学区社会（環境・保護者の意識など）

・コミュニティスクール（CS）の組織体制や活動ができている
・地域協働コーディネーターとの連携ができている
・小中が連携し、年間を通した活動が構築されてきている
・地域人材の活用ができており、地域の方々も協力的である
・学校に協力的な保護者が多く、PTAへの参加率も高い

Aーアプローチ

弱み（W） 学校内部（規模及び子ども集団・組織体制）

・組織内での課題の共有化、思いや意見の出し合う場が少ない
・学力の二層化が見られる ・学年により学習に向かう意識が低い
・指示待ちの生徒が多く、自分で考えず人の意見に流されやすい
・生活時間を自分でコントロールする力が不足している
・読む・書く・覚えるなどに困りを抱える生徒が多い（UDの視点）
・深く考え、行動ができない生徒がおり、同じ失敗を繰り返している
・表現力・説明力が不足し、仲間とのコミュニケーションがうまく取れない
・自分自身を客観的に見られない（メタ認知力の不足）

脅威（T） 学区社会（環境・保護者の意識など）

・家庭環境が苦しく、両親の不和や生活費等から精神的に安定しない生徒がいる。
・生徒数の減少から教職員数の減少、学校事務職員の不在など、教職員一人一人にかかる負担は大きい。
・生徒数減少で部活動が成り立たない状況あり。
・保護者の中には、学校での生徒の取組や子どもの様子を十分理解いできていない状況あり。

問題解決アプローチ

＜特色ある学校づくり＞
・学校、家庭、地域との連携・協働（コミュニティスクールの推進）
・小中連携の推進（9年間を通した継続的な教育活動の充実）
・小中一貫教育におけるキャリア教育の推進
・学びに向かう力の育成と自他を認め尊敬する心（リスペクト心）育成の育成（生徒会活動との連携・縦割り班活動・自己有用感の向上等）
・自らの課題を見つけ、自ら考え判断し、行動できる生徒の育成（生徒会目標達成マネジメントの推進⇒できることをより伸ばす活動）

＜学校改善の課題＞
・学校目標達成に向けた学校マネジメントの推進（組織力向上）
・若手教員を含めた、人材育成（授業実践力・生徒指導力向上）
・教職員のメンタル面の支援と働き方改革の推進
・UDの視点に立った生徒と保護者への支援
・低学力層の生徒への学力保障と授業改善（UDの視点を取り入れて）
・生徒会活動をもとに、生徒の主体的な活動の立て直しと取り組みの充実を図る（千中生徒会活動システムの構築・千中プライド育成等）

◇明らかになった課題◇

（１） 学校や教職員に係る課題

○組織内での学校課題を共有し、互いの思いや意見を出し合い共有する場が必要。
○学校目標の達成に向けた学校マネジメントのシステム化（学校ビジョンや重点目標の見直し）
○個々の職員が、生徒指導など学校課題に振り回され、個人の負担が重くなっている。
○指導や活動を通して成果を感じることができず、モチベーションが上がらない。
○教職員をまとめるリーダーや調整役・推進役の育成（人材育成）が必要。
○組織的に対応する場の設定や臨時講師を含めたチームワークの不足。

（２） 生徒に係る課題

○決められたことはやるが、自分から考えて、自ら行動することができていない。
○指示待ちの生徒が多く、自分で考えず人の意見に流される生徒が多い。
○学びに向かう意識が低く、みんなで協力して課題を解決する仲間づくりが必要。
○資料やデーターから必要なことを読み取り、分析し、自分の考えを表現することが苦手。
○自分の生活を改善し、コントロールする力が不足している。
○自尊感情が低く、自信のない生徒が多い。

（３） 家庭や地域に係る課題

○家庭で子どもと関わる時間が少ない。
○子どもの学校生活や家庭での生活時間を十分に理解できている保護者が少ない。
○子どもの良さを認め、ほめる機会が少ない。（生徒の自尊感情の低さに関連）
○家庭でのあいさつや家庭での声掛けができていない。
○地域の方々は、日常の生活のなかで子どもと関わる機会が少ない。

３．課題解決に向けた取組の具体化（ＳＷＯＴ分析による「強み」を生かしたシステムの構築に向けて）

（１）学校や教職員に係る「強み」

○互いの人間関係は育ってきており、協働体制をつくっていくことはできる。
○責任感があり、まじめで、教科や生徒に係る指導力のある教員が多い。
○目標や取組内容を理解し、やるべきことが明確になると計画的に動ける。
○取組により具体的な成果が見えると意識が向上し、前向きに取り組める。

（２）生徒に係る「強み」

○取組目標や取組内容が理解でき、やるべきことがはっきりすると、積極的に取り組むことができる。
○問題行動が少なく、先輩を目標にして学習や部活動、生徒会活動等に取り組む雰囲気がある。
○作業や活動中心の学習や活動は、意欲的・主体的に取り組める。
○専門部活動や清掃など、縦割りでの活動には協力的に取り組めている。
○生徒の多くは、認められ、ほめられると自信を持ち、力を発揮できる。

（３）家庭や地域に係る「強み」

○学校に協力的な保護者が多く、ＰＴＡ参加率も高い。
○学校運営協議会（ＣＳ；「千歳っ子を育てる会」）の組織体制はできており、協働目標達成に向けた取組は、連携型小中一貫教育とともに推進できている。
○地域協働コーディネーターとの連携ができており、地域人材の活用や体験学習の協力体制ができている。
○小中が連携し、年間の合同行事を協力しながら計画的に取り組めている。

４．本校の「強み」を生かした学校目標達成に向けたチーム学校（システム）の構築に向けて

○若手教員（臨時職員を含む）の人材育成（授業実践力・生徒指導力の向上）
○教職員のモチベーションの向上（成果の見える取組と協働的な取組の場づくり）
○学校目標達成に向けた「チーム学校」（システム）づくり
（**チーム学校を3つの組織とし、教職員・生徒会・CSからの学校目標達成へのアプローチを推進**）
○学校目標達成に向けた目標や取組の明確化
（学校評価の４点セット・評価システムの連動とカリキュラム・マネジメント（ＣＭ））
○組織的な課題解決力の向上（チームとして互いのつながりを育てる体制づくり）
○生徒会活動をもとにした、生徒の主体的な活動の創造とその充実（生徒会目標達成マネジメントシステムの構築・自立した学習者の育成：ヘルスポイントチェックの取組等）

Ⅲ　AI(開発的)アプローチを生かした本校での実践

※アプローチには、課題解決型と成長発展型（ＡＩアプローチ）があり、ＡＩアプローチは、もともとの良さ（強み）を伸ばしていくことで他の面も伸ばしていく考え方で、成果が見えやすく職員や生徒が前向きに取り組めると考えた。

１．教職員による学校目標達成に向けてのアプローチ（教職員側の「強み」を生かしたシステムの構築）

（１）学校評価の４点セットをもとに分掌経営案・学年経営案・教科経営案を４点セット化し、全教員が作成に係ることで、学校課題や生徒の課題を共有でき、また重点目標や取組内容を明確にし、それぞれ

を連動させることで、学校マネジメントに全教員が参加する体制づくりができた。

《分掌経営案》

2020（令和2）年度　学校経営案　　豊後大野市立千歳中学校

【学校教育目標】「認め合い　自ら学び　いのちを大切にする生徒の育成」

【育成を目指す資質・能力】協働的課題解決力（人間関係・社会形成能力・自己理解・自己管理能力・課題対応能力・キャリアプランニング能力）

分掌経営組織（学校評価の4点セット）

学校評価の4点セット

連動

《学年経営案》

2020（令和2）年度　学年経営案（4点セット）　　豊後大野市立千歳中学校

学校教育目標	「認め合い　自ら学び　いのちを大切にする生徒の育成」
育成を目指す資質・能力	協働的課題解決力（人間関係・社会形成能力・自己理解・自己管理能力・課題対応能力・キャリアプランニング能力）
【学校重点目標】	〈生きて働く「知識及び技能」の習得〉 ○基礎的な学習習慣や生活習慣及び基礎・基本的の学力を身に着けた生徒の育成 〈未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の育成」〉 ○自分の思いや考えを持ち、自信を持って表現でき、互いに考えを伝え合う生徒の育成 〈学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養〉 ○自ら課題を見つけ、様々な課題に仲間と協働しながら取り組む生徒の育成 〈豊かな心の醸成〉 ○道徳教育の推進

◇誰が。何をどれくらいの頻度でやるのかを具体的に書く

1年　学年経営4点セット

学年目標	○互いを認め合い学び合う学年集団づくり　○確かな学力と体力を身に付けた生徒の育成

	生徒の課題	学年重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標
学力向上	家庭学習の習慣化	学習規律の確立と主体的に取り組もうとする力の育成	Mノートの提出率を70%以上にする	メニューを考えたMノートの取り組み	毎日、Mノートの内容をチェックする
仲間づくり	自己存在感を持たせる共感的関係の育成	互いを思いやり認め合う集団作り	学校生活アンケートで「学校が楽しい」と答えた生徒を70%以上にする	エンカウンターを取り入れた特別活動や道徳の充実	定期的な学校生活アンケートの実施
体力向上	家庭での生活習慣を改善する	自分の生活習慣を振り返り、課題を見つけ改善していく	睡眠時間を7時間80%以上にする（チェック）	ヘルスポイント生活習慣カードのチェック・見直し	・月に1回（1週間）ヘルスポイントチェックを行う。 ・生徒会活動で、ヘルスポイントの結果を参考にした呼びかけを行う。 ・良になる生徒に対して、個別に指導する。

2年　学年経営4点セット

学年目標	中学校生活において、自分で考え、後悔の手本となる行動ができる生徒の育成

	生徒の課題	学年重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標
学力向上	学習に対する粘り[illegible]	[illegible]年生の学習習[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
仲間づくり	思いやりを持ち、互いに成長し合える仲間になること	相手のこ[illegible]やし、互い[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
体力向上	家庭での生活習慣を改善する	自分の生活習慣を振り返り、課題を見つけ改善していく	睡眠時間を7時間80%以上にする（チェック）	ヘルスポイント生活習慣カードのチェック・見直し	・月に1回（1週間）ヘルスポイントチェックを行う。 ・生徒会活動で、ヘルスポイントの結果を参考にした呼びかけを行う。 ・良になる生徒に対して、個別に指導する。

3年　学年経営4点セット

学年目標	最高学年として自ら考え主体的に行動する[illegible]の立場や考えを尊重し，認め合う集団をめざし，進路実現のために努力を惜しまず継続できる生徒の育成

	生徒の課題	学年重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標
学力向上	学力の二極化	学習規律の確立と低学力層の基本的基本の定着	[illegible]スト、評価テスト等得点率を20%未満にする	家庭学習の充実 個別指導の充実 テスト学習	Mノート、新研究ノートのチェックと個別指導 定期テスト前の個別学習指導の実施
仲間づくり	互いを高め合うこと	互いの立場や[illegible]合い高め合[illegible]くり	[illegible]していく[illegible]80%[illegible]	互いの思いを交流する場の設定 場をとらえた教育相談の実施	月に1回以上、行事や体験活動を通して学んだことや互いの思いや考えを述べ合う場を設定する 学期に1回以上教育相談を実施する
体力向上	基本的生活習慣の確立	規則正しい生活の[illegible]	[illegible]を70%以上にする。	ヘルスポイントチェックを行い、自分の生活を見直す	定期的にヘルスポイントチェックを行う。

学年経営の4点セット

連動

《教科経営案》

2020（令和2）年度　教科経営案（4点セット）　　豊後大野市立千歳中学校

【学校教育目標】「認め合い　自ら学び　いのちを大切にする生徒の育成」

【学校重点目標】〈生きて働く「知識及び技能」の習得〉○基礎的な学習習慣や生活習慣及び基礎・基本的の学力を身に着けた生徒の育成
〈学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養〉○自ら課題を見つけ、様々な課題に仲間と協働しながら取り組む生徒の育成
〈未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の育成」〉○自分の思いや考えを持ち、自信を持って表現でき、互いに考えを伝え合う生徒の育成
〈豊かな心の醸成〉○道徳教育の推進

◇誰が。何をどれくらいの頻度でやるのかを具体的に書く

教科経営4点セット　《[illegible]》

学年	課題	学年重点[illegible]	達成指標	[illegible]取組	取組指標
1年	基礎的な国語の知識・技能の不足	基礎的な国語の知[illegible]の充実	[illegible]期テストの得点が4割未満の生徒を[illegible]%以下に抑える。	・オープ[illegible]ジでの漢字の学習と小テスト[illegible]・課題[illegible]の言葉で表現する活動に[illegible]	・毎授業の始めの5分間、漢字学習と漢字の小テストを交互にしていく。 ・授業の中で1回以上、自分の考えをノートに書く作業を入れる。　・個別指導の充実
2年	課題解決のために必要な情報を読み取る力	課題解決のために必[illegible]情報を読み取る力[illegible]	[illegible]ストの得点が4割未満の生徒を[illegible]以下に抑える。	・[illegible]レンジでの漢字の学習と小テ[illegible]・課[illegible]の言葉で表現する活動に取り[illegible]	・毎授業の始めの5分間、漢字学習と漢字の小テストを交互にしていく。 ・授業の中で1回以上、自分の考えをノートに書く作業を入れる。　・個別指導の充実
3年	入試に対応できる力の不足	入試に対応できる力（基礎基本[illegible]	定期テストの得点が4割未満の生徒を[illegible]	・入試に対応できる力の定着 ・資料から情報を読み取る学習活動を多く経[illegible]	・毎授業の始めの5分間、漢字学習と漢字の小テストを交互にしていく。 ・授業の中で1回以上、自分の考えをノートに書く作業を入れる。　・個別指導の充実

教科経営4点セット　《[illegible]》

学年	課題	[illegible]	[illegible]	[illegible]	取組指標
1年	既習の計算の決まりを用いて正しく四則計算をする技能の定着が十分ではない	[illegible]	[illegible]80%以上を65%以上(8人)にする。	[illegible]るようなワークシートや習熟度別ABプリントを準備する	[illegible]毎時間、授業の初めにオープニングチャレンジをう。 [illegible]1T2指導により、個人のつまずきに寄り添った指[illegible]を行う。
2年	既習事項を利用して筋道を立てて考え、自分の言葉説明する力が不足	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]毎授業後のノート等の点検と授業前復習チェックを行い個々の理解度を確認指導する。 [illegible]定期テストでは、授業で解いた活用問題を取り入れて出題する。
3年	身の回りの事象を数学的に捉え、学習した内容を問題の解決に役立てることが苦手	[illegible]を身につけ、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養う。	[illegible]	[illegible]	[illegible]毎授業後のノート等の点検と授業前復習チェックを行い個々の理解度を確認指導する。 ・定期テストでは、授業で解いた活用問題を取り入れて出題する。

教科経営4点セット　《社会科》

学年	課題	学年重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標
1年	基礎的な知識・技能の定着	基礎的な知識・技能を身につける	定期テスト等の評価テストで正答率40%未満の生徒を20%未満にする	オープニングチャレンジ ペア学習やグループ学習での学びの場の設定 個別指導の必要な生徒への支援	オープニングチャレンジを毎時間行う。 ペア学習、グループ学習を取り入れ、学びを深め合う 生徒の学力に応じた課題、資料の用意
2年	基礎的な知識・技能の定着	基礎的な知識・技能を身につける	定期テスト等の評価テストで正答率40%未満の生徒を20%未満にする	オープニングチャレンジ ペア学習やグループ学習での学びの場の設定 個別指導の必要な生徒への支援	オープニングチャレンジを毎時間行う。 ペア学習、グループ学習を取り入れ、学びを深め合う 生徒の学力に応じた課題、資料の用意
3年	基礎的な知識・技能の定着 入試に対応できる学力の不足	基礎的な知識・技能を身につける 入試に対応できる学力の育成	定期テスト等の評価テストで正答率40%未満の生徒を20%未満にする	オープニングチャレンジ ペア学習やグループ学習での学びの場の設定 入試に対応できる学力の育成	オープニングチャレンジを毎時間行う。 ペア学習、グループ学習を取り入れ、学びを深め合う 入試に対応できる課題の指示や個別指導

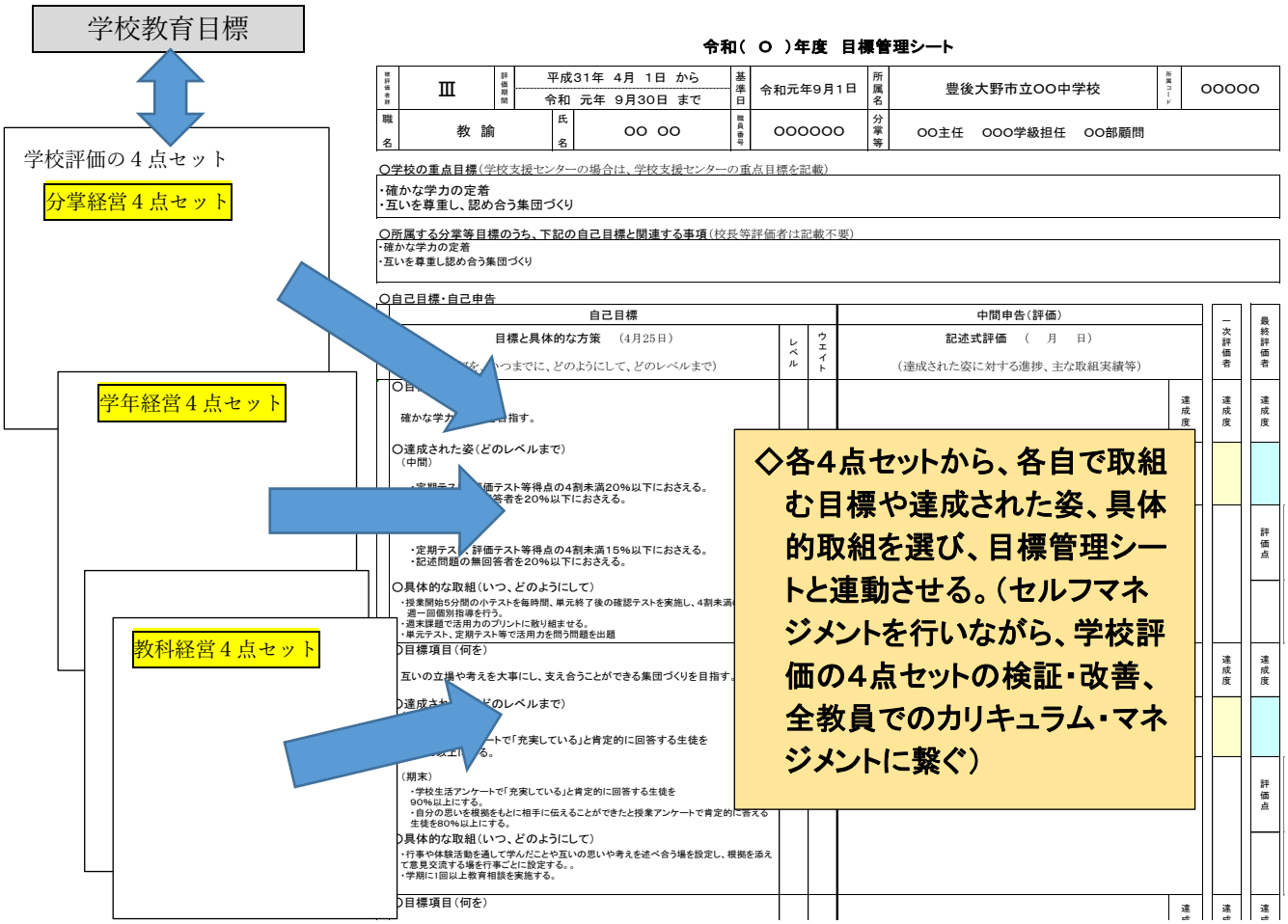
教科経営4点セット　《理科》

学年	課題	学級重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標
1年	基礎的な知識・技能の定着	基礎的な知識・技能を身につける。	定期考査等の評価テストで正答率30%未満の生徒を15%未満にする。	オープニングチャレンジ グループ学習での学び合いの場の設定 個別指導の必要な生徒への支援	オープニングチャレンジを毎時間ごとに行う。 グループ学習を取り入れ、学習課題に対してまとめる時間をとる。

教科経営の4点セット

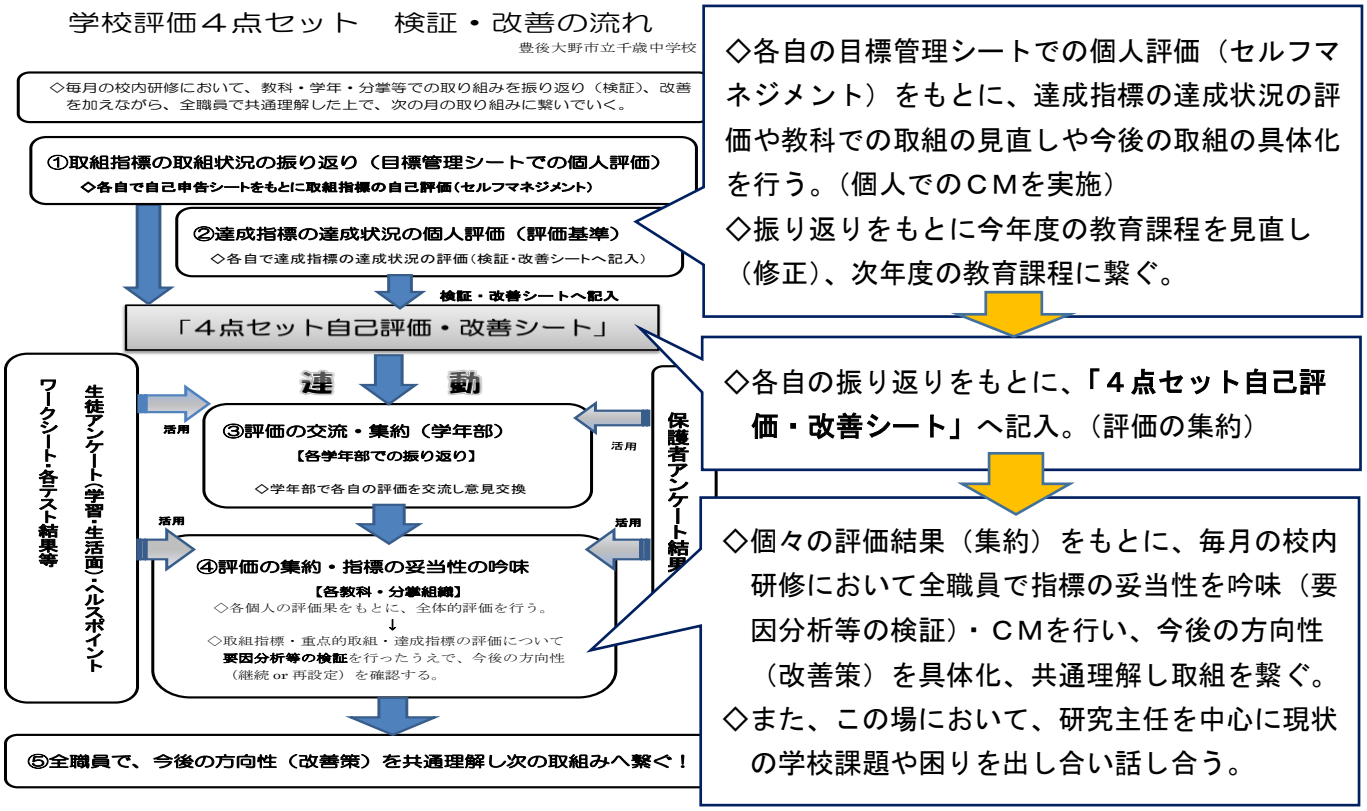
連動

（２）教職員評価システム目標管理シートを全職員（臨時職員も含む）に、分掌経営・学年経営・教科経営の４点セットと連動するように作成させた。（全教員を学校マネジメントへ参加させた）



（３）全教職員による月ごとの校内研修での目標達成マネジメント（短期ＰＤＣＡ）の実施。

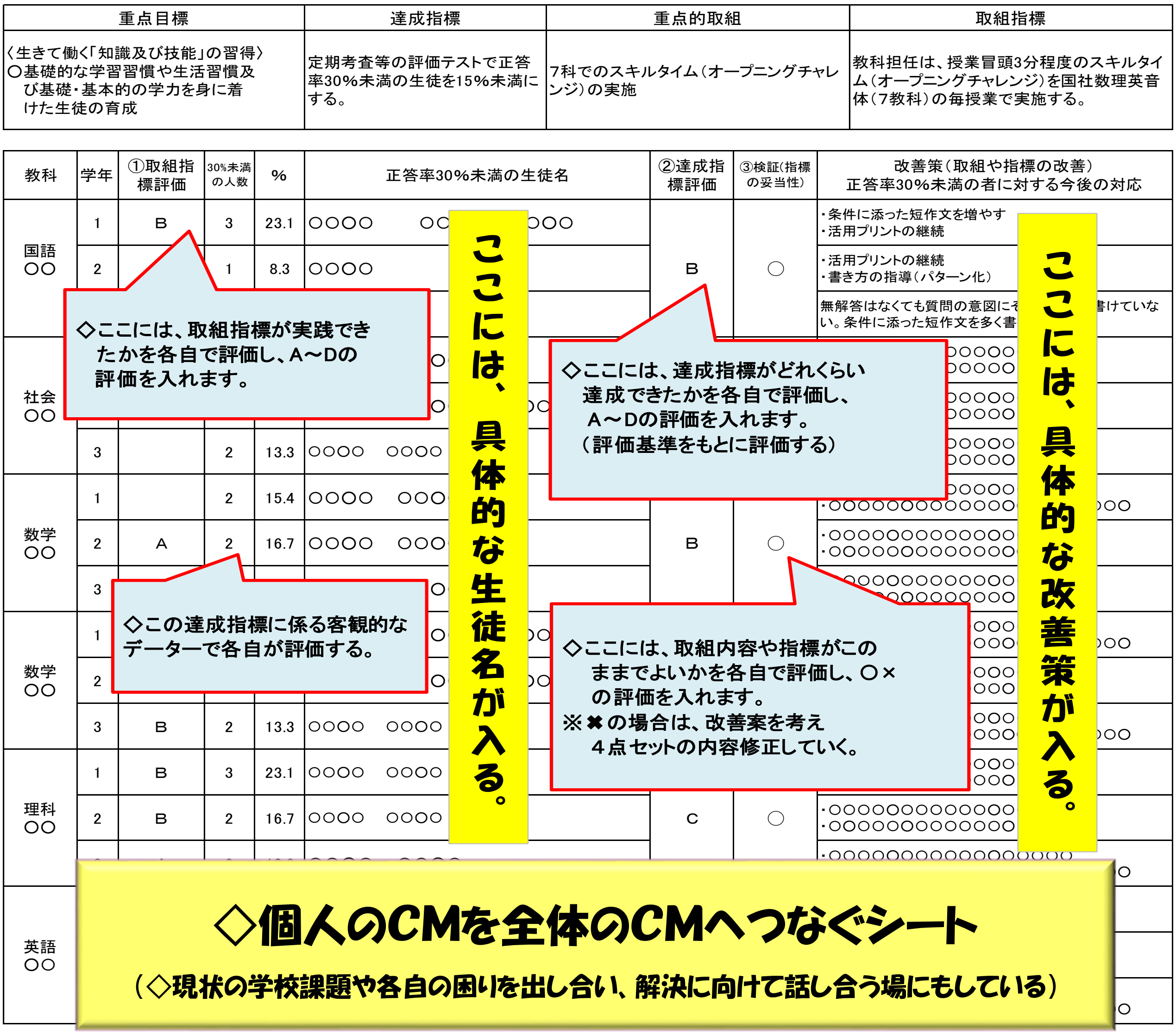
①学校評価の４点セットでの検証・改善の流れ（全職員での振り返り・個人ＣＭから全教員のＣＭへ）



②**「学校評価４点セット自己評価・改善シート」**をもとにした振り返り（検証・改善）

※このシートをもとに全職員での４点セットの検証・改善やカリキュラム・マネジメントの実施。

2020年度　学校評価4点セット　自己評価・改善シート（千歳中）



重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標
〈生きて働く「知識及び技能」の習得〉 〇基礎的な学習習慣や生活習慣及び基礎・基本的の学力を身に着けた生徒の育成	定期考査等の評価テストで正答率30％未満の生徒を15％未満にする。	7科でのスキルタイム（オープニングチャレンジ）の実施	教科担任は、授業冒頭3分程度のスキルタイム（オープニングチャレンジ）を国社数理英音体（7教科）の毎授業で実施する。

教科	学年	①取組指標評価	30％未満の人数	％	正答率30％未満の生徒名	②達成指標評価	③検証（指標の妥当性）	改善策（取組や指標の改善） 正答率30％未満の者に対する今後の対応
国語 〇〇	1	B	3	23.1	○○○○　○○…○○○	B	○	・条件に添った短作文を増やす ・活用プリントの継続
	2		1	8.3	○○○○			・活用プリントの継続 ・書き方の指導（パターン化）
								無解答はなくても質問の意図に…書けていない。条件に添った短作文を多く書…
社会 〇〇								
	3		2	13.3	○○○○　○○○○			
数学 〇〇	1		2	15.4	○○○○　○○○			
	2	A	2	16.7	○○○○　○○○	B	○	・○○○○○○○○○○○○○○ ・○○○○○○○○○○○○○○
	3							
数学 〇〇	1							
	2							
	3	B	2	13.3	○○○○　○○○○			
理科 〇〇	1	B	3	23.1	○○○○　○○○○			
	2	B	2	16.7	○○○○　○○○○	C	○	・○○○○○○○○○○○○○○ ・○○○○○○○○○○○○○○
								・○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
英語 〇〇								

③取り組みの中から見えてきた成果

〇毎月、各教員の目標（４点セット）の振り返りやカリキュラム・マネジメント（セルフマネジメント）が、このシートで全体（全員）の組織的なカリキュラム・マネジメントに繋がっている。
〇全職員により、具体的な生徒の姿をもとに情報交換（各教科の学習内容や取組状況等）を行うことができている。
〇学校教育目標達成に向けて、目標や指標に係る検証・改善ができ、互いが目の前にいる生徒に目を向けながら、今後の各教員（各教科）の具体的な取組を共有できている。
〇各教員の取組における困りや生徒の状況（困りや成果、良さ、変容等）を出し合うことで、互いの理解や生徒理解につながっている。（課題や互いの思い、考えを出し合う場の確保）
〇教科どうしのつながり（横断的な取組）の確認や改善をする場づくりができた。
〇毎月の「振り返り」では、「成果」や「よさ」「強み」を大事にして定着させ、伸ばす（育てる）ことで、そのことが組織の自信となり組織の活性化・職員のモチベーションの向上につながった。

（４）全教員の目標管理シート内容をまとめた一覧（「４点セット目標管理評価シート」）を管理職と各主任で把握し（共通理解）し、同じベクトル（方向性）をもって各職員へ指導・助言を行っている。

① **「４点セット目標管理評価シート」**の活用

４点セット目標管理評価シート①（R2年４月１日～９月３０日まで）　＜個人評価用＞　豊後大野市立千歳中学校

組織	役割分担	目標項目(何を)	具体的取組 (いつ、どのようにして)	レベル	ウエイト	アウトプット評価	達成された姿 (達成イメージ)	達成像に対する進捗状況・取り組み実績	アウトカム評価
学びづくり部会	○○ ○○	数学科…の学力の…	・ICT機器を活用した授業実践（毎時間…れに沿ったワークシートの活用 ・数学ノート点検評価、計画的な課題… ・図形単元等での習熟度別プリント…	H	50		・2年生「定期テストで、記述式の問題の正… ・3…正…		
			省」をその都度行う。 ・友だちを＋評価する取り…		5		学…と…生…生…目…		
	○○○○ ○○主任 生徒会担…	り組む生徒の育成	月末に目標が達成されたか分析をし次の活動につなげられるようにする。				定期考査等の評価テストで正答率30%未満の生徒を15%未満にする。 生徒の自己評価アンケート「だれにでも思いやりを持って接することができた」「仲間と協力して課題解決に向けて、生徒会活動に取り組んだ。」に3以上をつける生徒を80%以上にする。		
	○○○○ 3年副担任	英語の基礎学力を定着させ、入試に対応できる学力を身につける	・単語テスト、小単元ごとに小テストの実施 ・生徒の学力に応じて課題を指示する。	H	60		テストでの無回答者を20%未満にする。		

○分掌経営・学年経営・教科経営の４点セットから作成した各職員の目標管理シートを一覧にしている。

○管理職と主任が、各職員の目標や取組を把握し、それぞれの職員に対する指導の方向性を共通理解。

○定期的な授業観察や面談、企画会議・運営委員会等での情報交換等により、取組の進行管理や成果・課題の把握を行っている。

○職員については、人材育成の観点から、育てたい力を指導・助言により育てていく。

○主任のリーダーとしての自覚やカリキュラム・マネジメントに対する意識の向上を図る。

○各自のセルフマネジメントにより、取組を検証・改善し、次に向けて具体的な取組を考える。

○個人で取り組む上での困りや他教科との横断的な取組について等を全職員での校内研修につなぐ。

② 取り組みの中から見えてきた成果

○教頭や教務主任等による教育課程の進捗状況の把握や各職員への働きかけにより、個々のカリキュラム・マネジメントに関する意識が高まってきている。
○各教員の取組を共通理解し、同じベクトルを持った上での指導・助言により、各職員の取組が深まり、また管理職と主任との情報交換で、各職員をいろんな角度から評価できた。
○職員へ指導する主任のリーダーとしての意識が高まり、指導していく中で、主任自身もカリキュラム・マネジメントに対する意識が高まってきている。

2. 生徒による学校目標達成に向けたアプローチ（生徒側の「強み」を生かしたシステム構築）

（1）**「生徒会目標達成マネジメント」**システムの構築（生徒会各専門部による主体的な取組）

① 生徒会において、学校教育目標と生徒会テーマ、各専門部の重点目標を連動させ、定期的に目標達成の状況を生徒へのアンケート調査により評価し、マネジメントすることで、生徒たちが学校運営に係る体制づくりを行った。（生徒会をチーム学校の一つの組織とし、生徒会専門部活動の中で教職員とともに学校マネジメントと同様のシステムを実施している）

② また、生徒会専門部と同様のシステムで、「中学校学力向上対策　３つの提言」での「生徒と共に創る授業」の推進も行っている。各学年（学級）が、目指す授業像の実現に向けて学習目標（到達目標と行動目標）を作り、毎月専門部の目標達成状況のアンケートと一緒に調査し、集約をもとに学級で分析、評価をし、取組を検証・改善（マネジメント）している。

※この取組は、各学年学級の取組ではあるが、生徒会本部が中心となり、全校の集約結果を分析・評価し、生徒会長を中心に、取り組む中での課題や今後の取組の方向性などを全校集会で報告している。

◇生徒会目標達成マネジメントでの各専門部での分析（評価）シート

「全学年の生徒会目標達成に向けた取り組み」(生徒会目標達成マネジメント)アンケートの集約（　全校分　）　　千歳中生徒会（　生活広報　）部

専門部用シート

◇全校生徒　集約人数（　37　）名　　※アンケート実施日：6月実施

1. 次の質問について、あてはまる数字に〇をつけてください。(個人アンケート分)

質問項目	4 あてはまる	3 どちらかというとあてはまる	2 どちらかというとあてはまらない	1 あてはまらない	合計
①(図書学習部)1週間で100分以上読書の時間がとれたか。	10	5	10	12	37
②(図書学習部)1日宿題以外の勉強を1年10分、2年20分、3年30分以上できたか。	12	14	7	4	37
③(生活広報部)相手の目を見て笑顔であいさつできたか。	14	19	3	1	37
④(保体部)廊下を走らなかったか。	21	15	1	0	37
⑤(環境部)自分からきれいにするような人になれたか。	10	20	6	1	37
⑥自分の学級には、学習する雰囲気ができている。	9	19	9	0	
⑦学級の学習(授業)目標の「到達億票」は達成できている。	10	18	8	1	
⑧学級の学習(授業)目標の「行動目標」は達成できている。	0	0	0	0	

※全校生徒　集計表(%)

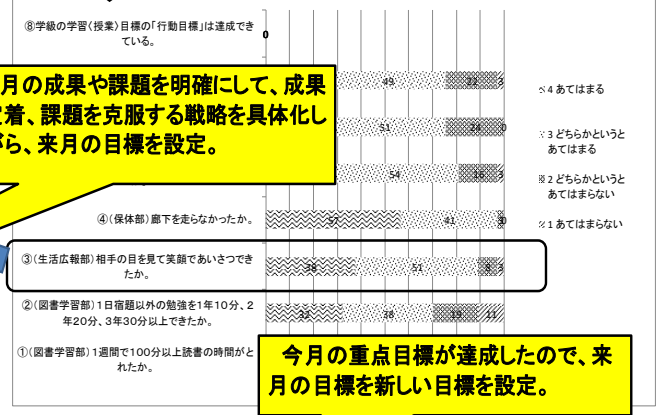
質問項目	4 あてはまる	3 どちらかというとあてはまる	2 どちらかというとあてはまらない	1 あてはまらない	達成率 90%以上
①(図書学習部)1週間で100分以上読書の時間がとれたか。	27	14	27	32	41
②(図書学習部)1日宿題以外の勉強を1年10分、2年20分、	32	38	19	11	70
③(生活広報部)相手の目を見て笑顔であいさつできたか。	38	51	8	3	89
④(保体部)廊下を走らなかったか。		41	3	0	97
⑤(環境部)自分からきれいにするような人になれたか。			16	3	81
					76
					76
					#DIV/0!

各専門部で、アンケート集計を活用(分析)し、今月の重点目標の振り返りをおこなう！

◇あなたの専門部の重点目標と具体的な活動内容を書いて下さい。

《今月の重点目標》	《重点目標を達成するための具体的な活動内容》
進んで大きな声であいさつをする。	笑顔でハキハキとした挨拶をする。 呼びかけのポスター作成。

学習(授業)目標アンケート集約(6月分)



今月の成果や課題を明確にして、成果を定着、課題を克服する戦略を具体化しながら、来月の目標を設定。

2. あなたの専門部の「重点目標」を振り返ってみましょう。

＜重点目標の達成結果＞		専門部で取り組んで良くなった点(生徒の様子)
専門部：重点目標の達成率(%)	89%	1日を通して、挨拶の声が聞こえてくるよになった。

＜専門部で取り組む中で見えてきた課題(生徒の様子)＞
・自分は挨拶しているつもでも、伝わっていなければ意味がない。

3. 「重点目標を達成するための具体的な活動内容」を振り返ってみましょう。

＜重点目標達成(90%以上)の場合＞
(成果)
・1日を通して挨拶の声が聞こえてくるようになった。

＜重点目標達成(90%未満)できないの場合＞
(課題)
・朝の挨拶練習の声が小さい、廊下ですれ違ったときに挨拶をしていない人がいる。

今月の重点目標が達成したので、来月の目標を新しい目標を設定。

4. 「重点目標」と「具体的な活動内容」の改善(見直し)について。(改善の必要があれば・・・)

「重点目標」の見直し	(修正・改善したらここに書いてみよう) ・先手挨拶、相手に伝わる挨拶。
「具体的な活動内容」の改善(見直し)	(修正・改善したらここに書いてみよう) ・ベストグリーティング開始 ・朝の挨拶練習をもっと厳しく。

◇あなたの専門部の来月の＜重点目標＞と＜具体的 を書いて下さい。

《来月の重点目標》	《重点目標を達成するための具体的な活動内容》
相手に届く、挨拶をする。 (相手に伝わらなきゃ、挨拶じゃないよ)	・大きな声で笑顔で挨拶をする。 ・名前を付けて挨拶をする。

◇学習目標達成（目指す授業像実現）に向けた各学級での分析（評価）シート

「生徒会目標達成に向けた取り組み」(生徒会目標達成マネジメント)アンケートの集約（　3年　）　　千歳中学校生徒会

学級用シート

◇3年　集約人数（　15　）名　　※アンケート実施日：6月実施

1. 次の質問について、あてはまる数字に〇をつけてください。(個人アンケート分)

質問項目	4 あてはまる	3 どちらかというとあてはまる	2 どちらかというとあてはまらない	1 あてはまらない	合計
①(図書学習部)1週間で100分以上読書の時間がとれたか。					
②(図書学習部)1日宿題以外の勉強を1年10分、2年20分、3年30分以上できたか。					
③(生活広報部)相手の目を見て笑顔であいさつできたか。					
④(保体部)廊下を走らなかったか。	9	4	0	0	13
⑤(環境部)自分からきれいにするような人になれたか。	6	4	3	0	13
⑥自分の学級には、学習する雰囲気ができている。	6	7	0	0	13
⑦学級の学習(授業)目標の「到達億票」は達成できている。	7	6	0	0	13
⑧学級の学習(授業)目標の「行動目標」は達成できている。	7	6	0	0	13

※3年　集計表(%)

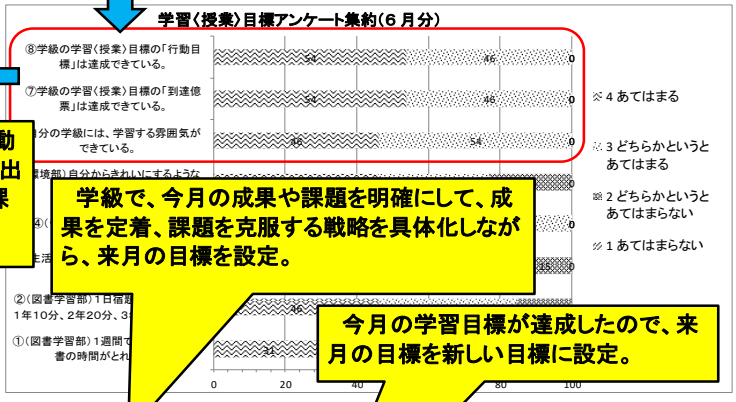
質問項目	4 あてはまる	3 どちらかというとあてはまる	2 どちらかというとあてはまらない	1 あてはまらない	達成率 90%以上
	31	0	31	38	31
	46	38	15	0	85
	69	15	15	0	85
	69	31	0	0	100
⑤(環境部)自分からきれいにするような人になれたか。	46	31	23	0	77
⑥自分の学級には、学習する雰囲気ができている。	46	54	0	0	100
⑦学級の学習(授業)目標の「到達億票」は達成できている。	54	46	0	0	100
⑧学級の学習(授業)目標の「行動目標」は達成できている。	54	46	0	0	100

各学級で、評価アンケート集計結果を活用(分析)し、今月の学習目標(到達目標・行動目標)の振り返りをおこなう！

◇あなたの学級の学習(授業)目標＜到達目標＞と＜行動目標＞を書いて下さい。

《到達目標》	《行動目標》
集中して学習に取り組もう！	先生の話や仲間の意見・考えをしっかりと聞く

学習(授業)目標アンケート集約(6月分)



今月の学習目標(到達目標・行動目標)に対して、個人アンケートで出された振り返り(良くなった部分・課題・今後取り組むこと)の集約

学級で、今月の成果や課題を明確にして、成果を定着、課題を克服する戦略を具体化しながら、来月の目標を設定。

2. 「あなたの授業に取り組む姿勢や態度」を振り返っ

＜良くなった部分＞・分からない所を先生に聞くように
やすいようにまとめる。　・発表ができた。・ノートに
がよくなった。　・分かっていたのに手を挙げなかっ
きちんと聞けた。　・手を挙げて発表する回数が増え

＜課題＞・もっと単語や用語、公式を覚える。　・復習
をもっとキレイにする。　・もっと積極的に取り組む。
的に人に聞くこと。　・ノートをとる時間が長いので、要

3. 「自分の学級の授業に取り組む姿勢や態度」を振り返って

＜良くなった部分＞・私語がなくなった。・積極的に発言する
受けれるようになった。・私語が前より少なくなった。・集中
最後まで粘って考えるようになった。

＜課題＞・意欲的な姿勢。・つい大声を出してしまう人がいる。　・私語をしないようにする。　・受験生だということを忘れない。　・ときどき集中がきれる時がある。　・もっと授業を大切にする。　・積極的に手を挙げたり、発言をしたりする。　・落ち着きのない人がいた。

4. 学級の学習(授業)を大切(より良いもの)にするために学級で取り組むべきこと。

(学級で今取り組むべきこと)
・みんなで協力して受験に挑む。　・静かに授業に取り組む。　・受験生としての自覚を持つ。　・先生の話を聞く。・態度が悪いときにはお互いに注意をし合う。　・黙想の呼びかけをする。　・2分前には席につき、黙想をする。
・昼休みの過ごし方に気をつける。　・朝学校で宿題を写したりしない。　・自分から進んで手を挙げて発言する。

＜アンケート結果 振り返り(成果と課題)＞

＜成果＞・少しずつ授業に集中できるようになってきた。　・学 雰囲気ができている。

＜課題＞・受験生であることを自覚し、意欲的な学習態度を ・積極的な挙手・発言が少ない・
・わからないところを先生や友達に質問する。 しっかりとやる。

＜今後の取り組み＞
・受験生であることを意識して、授業を大切にす 識や雰囲気を高めていく。　・わかる授業を生徒で創る気持ちを持つ。

今月の学習目標が達成したので、来月の目標を新しい目標に設定。

◇あなたの学級の来月の学習(授業)目標＜到達目 ＞と 目標＞を書いて下さい。

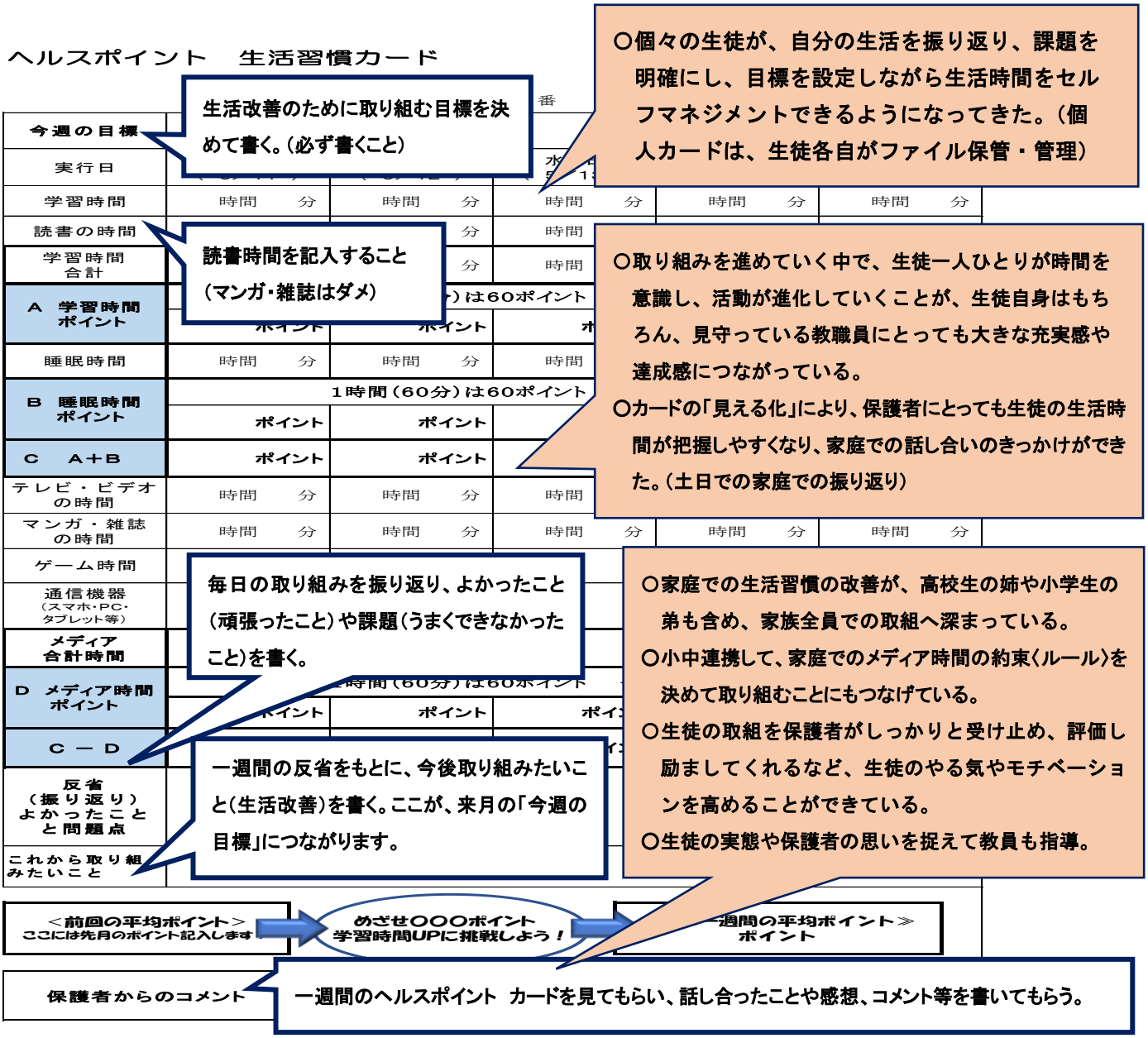
《到達目標》	《行動目標》
理解を深め、自分たちで授業を創り上げよう。	積極的に聴き、自分の考えをもつ。

③ 取り組みの中から見えてきた成果

○このシステムにより、生徒が取り組む課題や目標を明確にし、活動後、客観的なデーターをもとに分析・評価を行い、次の目標を考えて活動する体制が育ってきた。
○学校目標の達成に向けて、生徒自身が主体的に活動へ関われるようになってきた。
○教職員も生徒会に関わり、生徒のマネジメントシステムを俯瞰しながら取り組むことで、教師側の学校マネジメントを理解（再確認）でき、学校目標達成に向けた取組（CM）への意識向上にもつながってきた。
○この生徒会の取組が、県教委のホームページに紹介されるとのことで、生徒の「やりがい」や「自信」そしてモチベーションの向上につなげることができた。

（２）生徒会や保護者と連携した生活習慣確立（ヘルスポイントチェック生活習慣カード）の取組

①月１回（第２週の月～金）生徒の生活時間を記録（見える化）し、生活時間を自分でセルフマネジメントすることで、自分の生活時間をコントロールする力を育てる取組を行っている。
②保護者と連携し、家庭にも協力してもらいながら、生活時間の改善について取り組んでいる。
③この取組は、生徒会保体部が取り組み、ＩＣＴを活用し生徒がデーターを集約、全校集会では、取組に関する報告とポイントの高い生徒を表彰している。教員は、集約結果を指導に生かしている。
④ ヘルスポイント生活習慣カード（実践例）と取組の成果



3　CS（学校運営協議会）による学校目標達成に向けてのアプローチ（地域の「強み」を生かしたシステム構築）

（１）目標協働４点セットによる学校・家庭・地域の協働と定期的な目標達成マネジメントを実施

（２）地域協働コーディネーターを活用した地域人材活用や体験学習への支援協力

（３）連携型小中一貫教育による９年間を通したカリキュラム・マネジメントの推進

① 定期的な小中での合同行事（体育大会等）や地域の行事への参加、ボランティア活動等の見直し

② 地域人材を活用した体験活動（農業体験・職場体験・総合的な学習の時間での神楽や農作物栽培・郷土料理等）の見直し

③ 中学校から小学校への乗り入れ授業

④ 合同職員会議（児童生徒の情報交換を含む）・校内研修（互見授業での交流）・人権学習（合同研修・公開授業研究・統一カリキュラムのみなおし）

⑤ キャリア教育カリキュラム編成（小中９年間を見通したもの）

（４）目標協働達成の目標管理シート（千歳町学校運営協議会「千歳っ子を育てる会」）

2020年度　千歳小中連携型小中一貫教育「千歳っ子を育てる会」目標管理シート

協働目標　　自ら学び、たくましく、いのちを大切にする児童・生徒を育てる。

重点目標		達成指標	小中共通の重点的取り組み		取組指標	検　証（8月 各専門部の取組や小中別の記述参照）						
						取組指標実施率	取り組み状況の確認	達成状況の確認	自己評価	重点的取組や取り組み指標の妥当性	改善策・修正事項
確かな学力の定着	自ら学び（知）	基礎基本の学力が定着（小中別指標）し、学習に意欲的に取り組む子どもが８０％以上になる。	学校（学び）	○UDの取り入れかる授業	子を持たせる指導の工夫（課題設定、ペアトークの効果的設定）を小学校で[illegible]、中学校では（簡潔な発問＋簡潔な作業指示）を毎授業で、実施する。	小90% 中98%	【[illegible]の活用やここへの例示など、[illegible]る工夫を週3回以上実践して[illegible] 【中学校[illegible]み、生徒の共感ケートで[illegible]	○考えを持たせる指導の工夫を小学校では週3回：90% ○中学校では（簡潔な発問＋簡潔な作業指示）を毎授業で、実施する。98%	A	【指標の妥当性】 取り組み指標や取り組み状況を見ても妥当である。 【取組状況から】 [illegible]慣し[illegible]みができるか検討しながら、2学期も引き続き、行っていきたい。	小中合同の学び部会で、家庭学習の量や内容について意見交流を行った。 今後も、小中が児童生徒の様子を見ながら、意見交流を続けていく。
			家庭			78%					
						60%					
			地域	○学習サポーター・ゲストティーチャーとしての参加	〔小学校〕・キラキラアップタイムの採点，読み聞かせや，「郷土学」等にボランティア参加する。	90%	キラキラアップの採点は、コロナの影響で2学期からに延期。 読み聞かせや「郷土学」のボランティア等は、計画的にできている。	読み聞かせは、ほぼ毎週実施。「郷土学」のボランティアに延べ15人参加。	B		
					【中学校】 キャリア教育に関わる職場体験受け入れ、職業講話に積極的に関わる。	90%	総合学習で、神楽の指導と環境栽培の指導をお願いし、実施できた。 コロナの影響で、職場体験は2学期に延期	神楽指導と環境栽培の指導に、ボランティアが参加。	B		
豊かな心の育成	いのちを大切にする（徳）	ふるさとを愛し、豊かな心情を持った子どもが８０％以上になる。	学校（ふれあい）	○異年齢集団の交流	[illegible]ップ千歳」は企画はしたが、実施[illegible]。（コロナ感染拡大防止のため）			「クリーンアップ千歳」は、延期にしているが、状況を見ながら判断する。	B	【指標の妥当性】 ・学校の「異年齢集団の交流」については、コロナ感染拡大防止のために取組ができなかったので、今後、状況を踏まえ検討が必要。 家庭、地域についての取り組み指標は妥当である。 【取組状況から】 家庭、地域の取り組みはよくできている。	「異年齢集団の交流」の取組指標を修正する。 「小中合同の学校行事を４つ以上企画実施する。」を「小中合同体育大会を企画実施する。」に修正。 今年度は弁論大会、音楽祭がすでに中止と決定したため。
			家庭	○家族間の心の通い合いを促進する	[illegible]ドを活用して家庭での「進んであ[illegible]り組んでもらった。いいとこ見つ[illegible]配布し実施した。			あいさつについては、チェックシートの提出が89%でそのうち95%だできたと回答	A		
					・あいさつの[illegible]あいさつに積極的に取り組む。保護者アンケートで[illegible]をチェックする。	100%	[illegible]TAなどで、生徒には学活などで、あいさつの大切さについて話をした。	保護者アンケートで97%できたと回答	A		
			地域	○郷土学へのサポート	・コーディネーターと協力して、小中9年間を見通した「郷土学」[illegible]学期1回以上行う。			（小）「郷土学」は楽しいと90%の児童が[illegible]			
健康の保持・増進	たくましく（体）	健康の保持増進を心がける子どもが８０％以上になる。	学校（体づくり）	○歯と口の健康づくり	・毎給食後、歯磨きタイムを実施する。						「手作り弁当の日」の取り組みは、今後の状況によっては、変更する必要がある。状況を見ながら、必要に応じて取り組み指標を変更する。
			家庭	○食育の充実	・「手作り弁当の日」に、設定された目標に沿って、家庭での弁[illegible]する。 （年間　小：１回以上・中：3回）		[illegible]ない。	[illegible]達成できていない。		【達成状況から】 ・実施状況を継続していく。 ・コロナウィルスの影響で今後の取り組みについては、検討しながら進めていく。	
			地域	○自力登校の見守り	・スクールガードによる自力登校の見守り活動を月1回実施する。（小500m前，中1㎞前登校）	100%	・スクールガード等の協力で実施できている。	現段階で目標達成	A		

◇小中学校の学校目標達成に向けて、学校・家庭・地域の協働目標の4点セットを共有し、定期的なマネジメントを実施。

◇連携型小中一貫教育とCSを合体した形での組織的・協働的な取組を推進

◇学校での取り組みを家庭や地域につなぎ地域の人材活用や体験学習の協力を学校へつなぐことができている。

◇CSによる組織は、地域の各種団体の集合体なので、回を重ねるごとに、CS会長やコーディネーターを中心に、小中学校への協働体制や地域のネットワークが深化している。

Ⅳ　成果と課題

○定期的な話し合いの場を設定することで、学校課題に対する組織的課題解決力が向上し、教員が一人で課題（困り）を抱えることがなく、チーム（組織）として対応できる体制が育っている。
○長所や強みを生かしたことで、活動後の成果や成長が見え、教員や生徒も活動に対する意欲が向上した。
○学校でのマネジメントを推進していく中で、「成果」や「よさ」を定着させ伸ばしていくことが組織の自信につながっている。また「課題」を明確にし、その克服の具体的方法をみんなで考え、しっかりと話合うことで、共通理解し、先を見通して取り組むことができるようになった。
○互いに長所や強みを見る目が育ち、互いのよさを認め合い、教職員においては同僚性も育ってきた。
○主任を中心とした毎月の取組が、個々のマネジメントに終わらず、学校評価の４点セットに連動した個々人のマネジメントを全職員によるマネジメントへと連動することで、教科経営における困りについてみんなで共有し、課題や困りを解決していこうとするチームワークができ始めている。

△校内でのマネジメントシステムは形になってきたが、個々の職員がマネジメントを行い、実施した教育課程を見直し、改善していく時間や場の確保、また、限られた時間の中で、個々の教員の困りや今後の具体策を効率的に話し合うための課題（話し合いの柱）の絞り込みを明確にする必要がある。
△主任のリーダーシップのもと、個々の教育活動を教育課程に位置づけ、生徒や地域等の実態に応じて、目指す生徒の資質・能力の育成に向けて、教科等間の連携（横断的な取組の推進）をより深めていく必要がある。
△チーム学校としての３つの組織（教職員・生徒会・ＣＳ）が、より主体的で、互いのつながりを深めていけるように、各組織における「熟議」「協働」「マネジメント力」を育てていきたい。
△特に、生徒（生徒会）については、ヘルスポイント習慣カードや学習（授業）目標達成の取組などを通して「自立した学習者の育成」に向けて取組を深めていく。

Ⅴ　終わりに

今現在、コロナウイルス感染症対策により、学校現場では子どもたちの命や安全を守りながら、学びの保障に向けて、教育課程の見直しや授業改善など先を見通したより具体的な対応が必要となっている。特に若い教員は、限られた授業時間で子どもの学びをどのように保障していけばよいのかなど、多くの困りを抱えているのではないかと思われる。学校においては、教務主任等を中心に、全職員を巻き込んでのカリキュラム・マネジメントを実施し、互いに知恵を出し合いながら子どもの学びの保障に向けた取組を推進していくことが大切だと考える。

今後に向けては、学校教育目標の達成に向けて、組織の持つ「強み」を生かしながら、組織の力をより伸ばしていくために、組織における「熟議」「協働」「マネジメント」をもとに、主任を中心としたチーム学校としての学校運営に取り組んで行きたい。

本報告については、今年度１年目の学校経営のスタートであり、まだ十分なものではありませんが、今後の各学校の取組の一助となればと考える。また、この報告内容に関わる、指導・助言等がいただければ有り難い。

提供資料（ファイルリスト）

〔資料○〕　２０　学校経営計画＋学年経営組織・教科経営組織（千歳中）
〔資料①〕　２０　学年経営案（各学年記入）千歳中
〔資料②〕　２０　教科経営案（教科で記入）千歳中
〔資料③〕　２０　ＳＷＯＴ分析シート（千歳中）
〔資料④〕　２０　４点セット自己評価・改善の流れ　Ｒ２年度（千歳中）
〔資料⑤〕　２０　学校評価　４点セット自己評価・改善シート　千歳中
〔資料⑥〕　２０　Ｒ２年度　４点セット目標管理評価シート＜中間申告＞
（個人・評価者用）千歳中学校版
〔資料⑦〕　２０　生徒会目標達成マネジメント（集計表）
◇月専門部と学級の取り組みの評価表
〔資料⑧〕　２０　ヘルスポイントカード要項（生徒用）○
〔資料⑨〕　２０　生活習慣カード（各月チェックシート）
〔資料⑩〕　２０　千歳小中１学期協働目標評価